

第1回（仮称）台東区産業振興計画策定委員会 議事録

日時 令和6年4月23日（火）
会場 中小企業振興センター 2階会議室

台東区文化産業観光部産業振興課

1 出席者
(13名)

委員長 懸田 豊
副委員長 伊藤 匡美

委員 金澤 守利
委員 長堀 慶太
委員 田中 耕太郎
委員 清田 祐次
委員 伊藤 康博
(代理出席 三木氏)
委員 岡崎 健一
(代理出席 小早川氏)
委員 西島 裕樹
委員 平川 浩一
委員 関井 隆人
委員 内田 円
委員 上野 守代

2 欠席者
(2名)

委員 田村 和義
委員 森本 佳直

3 事務局

文化産業観光部産業振興課

(午後2時00分 開会)

1 開 会

○事務局

—開会挨拶・委員紹介—

○懸田委員長

台東区産業振興計画は、前は2016年度に策定し、2017年度から2021年度までの期間だったわけですが、既に色んなところでご紹介があったと思いますが、この間コロナという大きな環境変化がある中で色々修正しながら進めてきたということです。改めて環境変化が多い中で産業振興を図っていくための計画を策定し、それに基づいて政策を策定していこうということです。皆様のご協力で、実りのある計画ができればと思っております。

○伊藤副委員長

前回の産業振興計画にも携わらせていただいたのですが、環境が緩やかで、同じ流れの中でどう進化していくかという話だったと思いますが、今委員長のお話にもありましたようにコロナによって針が一気に進みました。それでいながら不確実でどう変わるのか読めないという大変難しい時代に入り、中小企業を多く抱える台東区にとっては区のハンドリング、それぞれの事業者の皆さんとの連携というのがますます欠かせないそういう時代になっていくと思います。より良い計画がつけられるよう力を尽くしてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

2 議 題

(1) 計画策定の概要について

○事務局

—計画策定の概要について説明(資料2を説明)—

○懸田委員長

只今のご説明につきまして、何かご質問、あるいは確認事項等があればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

私のほうからひとつよろしいですか。(仮称)と書いてあるのはいつ決めるのでしょうか。議会が通って、最後の今年度末に(仮称)が消えて振興計画というわけですか。

○事務局

この策定委員会で名称を検討しまして、最終的には区のほうで決定したいと考えております。

○懸田委員長

毎回委員会を（仮称）で開くのはどうかと思いますが。

○事務局

最初に案を示すか、または今後、策定委員会の中では（仮称）をやめて、産業振興計画という名称で進めさせていただくか、そのあたりは整理させていただきます。

○懸田委員長

他に何か確認事項等ありますでしょうか。皆様方のお手元に前回の産業振興計画の簡単な概要が示されている資料があると思いますけれども、これと今回策定する産業振興計画との間で大きな違う点として、進め方が違うとか、あったら教えていただけますでしょうか。

○事務局

こちらの計画、前回策定した計画と大きく違うところとしましては、前回計画は計画期間が5年間でございましたが、今回は概ね10年程度としており、期間が異なっています。また、前回計画では、その5年間で実施する具体的な事業について細かく載せていました。伊藤副委員長がおっしゃる通り、前はこのような進んでいこうというイメージのもとで作っていたところなんですけれども、今は3年後、5年後、10年後を見据えることができない状況です。そのため、具体的な事業については細かく掲載せずに、社会経済情勢の変化に応じて、柔軟で機動的・効果的に事業を実施していく考え方を新たに追加したところが大きな違いと考えております。

また、計画の作り方なんですけれども、前はこの策定委員会の下に専門部会を設置して、実際の細かい施策などを検討してきましたが、その専門部会については設置せずに、意見聴取会ということで、いくつかのテーマに絞っている関係者、事業者を集めて意見を聞いていきたいと考えております。

（2）台東区産業の現状について

- ①実態調査結果
- ②産業振興推進方針に基づく事業実績

○事務局

—台東区産業の現状について説明（資料3、資料4、資料5を説明）—

○懸田委員長

ただ今のご説明につきまして何か確認したいこと、質問事項等ありますでしょうか。

資料3の1ページ目、若干事業所数と従業者数が上向いてということでしたが、これは2021年の経済センサスに基づいておりますので、その後のコロナの影響等々を考えると、再びこれが減少に転じる可能性もあるということで、経済センサスの概要等々でまたご報告もあろうかと思えますけれども、必ずしもこのままだったらよいということが、言えないという、まさに大きな環境の変化に直面していることがさまざまな実態調査等々でお分かりいただけるのではないかと思います。いかがでございましょうか。

○岡崎委員代理

経済産業省生活製品課の小早川と申します。資料5の2ページ、基本方針1の7番の就業支援なんですけど、これについての質問でございまして、生活製品課で所掌している業界というものが生活製品ということで、例えば繊維ですとか、陶磁器ですとか、台東区さんに関係があるものとしては皮革とか、そういったそれぞれの地域に根付いた産業みたいなことを多く担当しているのですけども、そういった土地の方々と意見交換とかをしていると、都市部に人が取られて地方まで人が回ってこないという話を昔から聞いています。そのためにそれぞれの自治体さんのほうでこういう就業支援をやっていると。具体的にはハローワークによる就業支援ですとか、そういったものをやられていると聞くんですけども。一方で台東区のような、地方から見ると都心で東京のど真ん中でもでも雇用・就業支援というのをやっているというのは私も驚きだったんですけど、具体的にどういったことをこの令和5年度とかこれまでやられてきたのでしょうか。

○事務局

基本的にはハローワークさんですとか、東京都さんとか、そういったところと連携した面接会とか、そういった他の機関と連携した取組みがメインとなります。

また、就業相談を区役所のほうで週4日、専門の相談員を1名配置いたしまして、例えば履歴書の書き方だとか、そういうものも含めた相談という形で支援をしています。

○岡崎委員代理

ありがとうございました。言うならば寄り添い支援みたいなことを、各地方必ずどこでも同じような業務を進められているということですかね、そう理解しました。

○伊藤副委員長

基本的に東京の場合は皆さん大企業に就職してしまうので、中小企業の皆さんは人

手が足りなくて、そこのマッチングをするので雇用対策が必要ということですよね。

○事務局

副委員長がおっしゃる通りです。相談に来られている方が必ずしも就職したくてもなかなかどういうふうに進めたいかわからないとか、そういったところで我々はハローワークさんと連携させていただきながら関係機関や支援先につないだりだとか、そういったところの助言を寄り添いながらさせていただいているところになります。

○懸田委員長

それぞれの業界団体で同じような雇用支援のようなことは台東区の場合あるのでしょうか。金澤委員のところでは何かやってらっしゃいますか。

○金澤委員

靴業界はそういう支援ということは現実には行っていません。台東区の産業振興計画ということなのですが、台東区に地場産業として靴、靴、ベルトだとか、いろいろ地場産業があるのですが、産業の概要を見て増えているのはIT関連の事業所であって、我々の靴、靴、ベルト、帽子関係ですと、はっきり言うと卸関係も製造メーカーも減っております。

それと台東区は観光資源が豊富で上野・浅草があって、地場産業を循環型で売るというビジネスを我々はしているわけではなく、その商品を日本全国、東京から発信をしています。本社の企画やアプローチ、ブランド力は台東区の会社ですが、六本木だとか新宿だとか、インバウンドで外国の方がいっぱい来るときに、台東区の産業の商品だということ発信していくと思います。

ですから、ネットとSNSで使っているように、インスタグラムで「こういう会社があります。」「本社の機能があって、ここで生産をしている商品で、これは台東区の商品で地場産業です。」ということをどのように発信するかを、計画を通じて今後うまく循環して回っていければ非常に地場産業としては助かります。

(3) 意見聴取会のテーマ案について

○事務局

—意見聴取会のテーマ案について説明（資料6を説明）—

○懸田委員長

このテーマ、あるいはそれ以外にこういうテーマも必要ではないかということにつきまして、ご意見ご質問等があればと思いますけれども、いかがでございましょうか。

○岡崎委員代理

ご説明いただきありがとうございます。地域資源の活用はまさにおっしゃる通りだと思っています。以前、福島復興に携わっていた時の話として、福島県庁や浜通り地域等 15 市町村の方々と一緒に、福島浜通り地域等の交流人口拡大に向けて取り組んできました。そのときにも 15 市町村の地域資源とは何か、ということを整理することから始めました。それを思い浮かべながら今説明を聞いていると、このテーマの地域資源の活用を考えたときに、台東区の地域資源というものがなんなのか、私が勉強不足なんですけど、それは資料 2 の 9 ページに書かれているような、マップと文字で書かれていますけども、そういったものも台東区の地域資源なんだということが皆さんの中でセットされている前提でこれから区内の事業者さんにヒアリングしていくということなんですよ。それともこの意見聴取会をするにあたって、改めて地域資源がなんであるかということをもう一度、再度確認し合うプロセスが予定されているのでしょうか。

○事務局

我々も産業の集積というのは、特に地域資源の中で活用することができるのではないかとことは考えております。ただし、昨年度で言いますと、革靴の製作体験というのをツアー方式で実施するなど、そういう取組みを始めているところでございます。まだまだもっと活かせるのではないかとことは思っておりますので、そういったアイデアですとか、先進的に取り組んでいる方たちのご意見も踏まえて、地域資源の活用というこのテーマについては議論を深めていきたいなと思っておりますのでございます。

○岡崎委員代理

ありがとうございます。議論から外れてしまうかもしれませんが、今、生活製品課の中でたくさんの産業振興をやっている中で、たまたま私が担当しているもののひとつとして玩具産業というのがあります。資料 2 の 9 ページには、このマップにちょうど浅草橋の近くに玩具というのがあるんですけど、まさに玩具産業というのは少子化の中でも右肩上がりの成長産業で、生活製品課としても非常に注目している産業なので、台東区の資源として玩具が存在しているのであれば、ぜひ玩具産業の発展に向けて台東区さんが担われる役割みたいなことを整理していただけると、我々としても連携できると思って聞いていました。よろしくお願いします。

○長堀委員

日本ジュエリー協会の長堀と申します。意見聴取会のテーマ案ということなんですけれども、私も前の会議に何度か出席させていただいて、わりと台東区の伝統産業で鏡とか靴とか、我々ジュエリーもそうなんですけれども、よく耳にした話というのが

人材不足であるとか後継者不足であるというような話でした。このようなことも意見聴取会のテーマにならないのかなということをお伺いしたいのと、やはり台東区っていろんな産業がある中で、中小零細が多くて、なおかつ手工業的なものも多いですから、技能の伝承とかそういったこともやはりなんらかの対応をしていかないと、台東区の区内の業界の持続性というものが将来にわたってなかなか担保されづらいんじゃないかなと感じておりますので、こういったことを意見聴取するというお考えはあるのかをお伺いしたいと思います。

○事務局

昨年度、実態調査という形でいろいろな事業者や業界団体のお話を聞いた中では、やはり人手不足というようなフレーズを耳にしております。これに関しては台東区や、国、東京都など、いろいろなところで取組みをしている中で、台東区がどのように関わっていくか整理していかなければならないと考えておりますので、その視点でもテーマにできるか検討していきたいと考えております。

○懸田委員長

具体的なテーマを聴取していく中でそういう視点は、極めて重要になってくるんじゃないかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○上野委員

長堀委員の意見はすごく賛同するところでございます。今、3つの案が挙がりましたが、いずれの方にも共通する話題になるのかなと思っておりますので、あえてテーマを1つというよりは、この3つのヒアリングをする団体で共通するとして手工業の技術の伝承をどういうふうにしていくのかですとか、企業が生き残るための持続性という部分でもどういう活用をしていったら良いとか、そういう普遍的なテーマとしてひとつ捉えてはいかがかなというふうに、今、長堀委員の意見を聞いて感じました。いかがでしょうか。

○懸田委員長

おそらく技術とかいろんなものの承継ですとかそういうのは地域資源の活用とかつながりの中でも当然出てくるテーマであることですので、そういう視点が必ずそれぞれのテーマの中でも重要な柱として出てくるように思います。そのへんは進行の上でよろしくお願いいたします。

○西島委員

東京都産業労働局商工部の西島でございます。意見聴取会のテーマ、ありがとうございます

ざいます。いずれも非常に重要なテーマで、3つとも要はつながりというか連携というか、そういったところ、官民連携、事業者間、支援機関との有機的な連携というところがございます。

長堀委員からもお話がございましたけれども、人材不足、後継者不足というのはマクロな視点で見ると東京都は都外に比べてという話がありましたけれども、東京でもやはり、業種や地域に限らず、全体で人材不足になっている中で、人材確保、後継者不足の解消というのは非常に重要なテーマとっております。

私は去年、一昨年と、都の伝統工芸品の産業振興を担当させていただいておりましたけれども、伝統工芸品産業の後継者不足というのは危機的状況でございまして、また東京都としても新しくいわゆる大学生とのマッチングというか、そういったところも新規事業として立ち上げたところがございます。

あともうひとつ、この3つの共通テーマという位置付けで捉えていただいても良いかなと思うんですけれども、今回はコロナ後というところで、コロナを経験して変わっていったひとつの大きな流れとして、デジタル化が非常に進んでいっているのがあります。私も不勉強で恐縮なんですけれども、台東区さんは非常にコンテンツがすばらしくて、やはり上野、それから浅草、そういった地場での産業の技術ですとか、そういったコンテンツ力というのが非常にあるのかなと思ってるんですけれども、それを今、非常にデジタルが進んできてしまって、Eコマースも含めてどんどん売り出していく必要が出てきているんじゃないかなと。それもなかなか技術のすばらしさとか、技能のすばらしさをEC上、オンラインで伝えるすべというのがなかなか難しく、やはり画像とか動画だけで伝わるかどうか。やはり職人さんと話してみる、工房に行ってみるといった体験とともにじゃないとなかなか購入まで至らないとか、そういう課題があると思っております。

ですので、技能的なところも含めてですけど、技術のすばらしさ、コンテンツのすばらしさをどうやってデジタルの力、もしくはハイブリットでもつなげていってどんどん産業を振興していく必要があるのかという視点も共通のテーマとして、少し検討の中に入れ込むと良いんじゃないかなと思います。また、インバウンド対応について、2024年1月から3月の訪日外国人客の旅行消費額が過去最高の記録になっているという調査結果が出ておりますけれども、そのインバウンドももちろん浅草とか上野というのは非常に来ていただいていると思います。そういった人たちに対するPR、そのデジタルとインバウンドというところも少し共通テーマの中に入ってくると大変ありがたいかなと思っております。

○事務局

ただ今各委員からお話がございました、長堀委員からもありました人材不足、後継

者不足が1点目。2点目は今お話がありましたデジタル化やインバウンドについてご意見いただきました。資料6では3つテーマを分けさせていただきましたが、それぞれ対象者として、1つ目が区内事業者の方、2つ目が地域の任意団体の方、3つ目が支援機関の方という形で、多少分けております。これら共通する課題、テーマとして、視点が違う方々にヒアリングする中で含めさせていただきました、聞き方は異なった形になるかもしれませんが、事務局として皆様からあがった課題を含めて意見聴取会に臨んでいきたいと考えております。ありがとうございます。

○田中委員

質問させてください。ここにある3つのテーマ、地場産業の活用など3つ挙がっていますが、これに漏れるところというか、地道に実直にひとつのことに取り組んでいる人たちに対するヒアリングもないので、このヒアリングをベースにやっていくとそういう人たちというのは漏れてしまうというか、振興計画の対象にならないのではないかと危惧しています、その点教えてください。

○事務局

昨年度実施した実態調査の中で5,000社にアンケートをお配りして、そのうちの3割半ばぐらいの方からご回答いただいて状況というのは把握しているところです。また日々、産業振興事業団のほうに事業者の方からのご相談や、いろんなイベントのときに参加していただいたときの声など、いろんな事業の中で広いながら、お声を拾いながらこの計画には反映していきたいと思っております。確かに非常に多くの事業者でいろんな業態の方がいらっしゃる中で、本当にそこをすべて拾うのはなかなか難しいところではあるんですけども、日頃の事業の中からそういったご意見についてはお聞きしていきたいと思っております。

○田中委員

例えば、区がやってくださる支援策、事業相談に来ない、でも一生懸命頑張っている人たちはおいてけぼりになってしまう気がするんです。

○事務局

田中委員のからもお話がありました通り、意見聴取会のテーマの案としてここを掲げさせていただいておりますが、聴取会以外のところでも、例えば、職人の方をはじめとした個々の事業者さんの声というところを日々の業務の中で聞きながらも、聴取会以外のところでも計画に反映できないかと事務局のほうで努力して進めていきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きご協力をよろしく願いいたします。

○清田委員

ハローワークの清田です。対象者が区内事業者、任意団体、支援機関ということで、

今、漏れのないようにやってほしいというご意見もありましたけれど、いろんな手工業など、いろんな方がいらっしやると思うんですが、そこで働いている労働者側の方の意見なんかもここの中に入ってこれる余地と言いますか、職人の方などがどういった状況で、こういった継承の仕方があれば次につながるという、労働者側の意見なんかを吸い上げる機会というのはあるのかお聞かせいただきたい。

○事務局

本日お示した資料の中には、今、ご意見いただきましたような労働者側からの視点というのが含まれていないところではあるんですけども、確かに区内産業を支える労働者というところが非常に重要なことと事務局としても考えておりますので、検討課題のひとつとして捉えさせていただきます。今後の進め方については事務局を含めまして各委員の皆様にご相談させていただきながら進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

○懸田委員長

それではこのテーマも含めてこの産業振興計画を策定していくうえにあたって何か特にご意見、あるいはこういうテーマはどうかということがあればお受けしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

10年後を射程して計画を作っていくわけですが、そういう視点がヒアリングや意見聴取会を経て、どういう形で10年後を見据えていきたいというお考えなのでしょうか。

○事務局

10年後というところを見据えてのご意見の聴取というのは、参加される方にも難しい部分もあるかと思っておりますが、事業者の皆さんは、変化に対応し続けなければならないとか、自分たちの経営課題をクリアしていく、その姿勢というのはある意味では普遍的なのではないかと感じております。どういった視点でその10年間というところが入るかというのは今後計画の策定を進めながら考えていきたいと思っております。

○西島委員

副委員長が先ほどおっしゃった通り、非常に不確実性の時代の中でなかなか10年後の日本や東京、台東区がどうなっていくのかはわからない部分があって、なかなか計画って難しいと思うんですけども、今までは予測、ある程度推計というか、経済状況の推計をしながら、3年、5年、10年の計画を、行政計画を立ててきたというのがあると思うんです。しかし、逆に不確実性の時代になると、むしろそれが今までの推測に基づいて計画を立てるフォーキャストという考え方ではなく、逆に台東区

としてどうなっていきたいのかという意味みたいところを少し出して、そこからバックキャストでいくという、10年後、どうしていききたいのかというところの意思の部分を少し入れ込めるような計画になっていると良いのかなど。

あとは、事務局の皆様がおっしゃった通りですけれども、変化に対応していく事業者さんを後押しする。ただ、田中委員がおっしゃった通り、ずっと地道にやっていたいでいる事業者さんもいるので、変化に対応していくとともに、変えないで守るべきものは守ると。ずっと続けていくためには、変えるものは変えるけれども、変えないものは変えないという取組みも行いつつ、地道にやっていただけの方にも下支えできるような計画になっていると良いのかなど、抽象的ですが、そう思っております。

○懸田委員長

基本的な考え方の中で柔軟性の高い計画にしていくんだということをおっしゃって、ただ柔軟性の高い計画はなんなのかということを考えていくと、西島委員がおっしゃったようなことも必要になってくるんじゃないかなというふうに思いますので、そのへんも含めてお考えいただければと思っています。他に何かご意見ございますでしょうか。

台東区の独自性も踏まえて、産業振興計画を練っていくときに台東区のこれだけ大きい観光資源はどうするんだということになってくるわけですが、それは観光基本計画が別途あって、それにどこまで踏み込むかというのはクラブツーリズムの事例が挙げてらっしゃるけれども、無視して今までみたいな観光が増えるだけでは済まないのかな、インバウンドの需要ということもありますから。そのへんは部内の調整になってくるんでしょうけれども、そういう点も考えていただければと思います。

今、内田委員の所属は、文化産業観光部ですか。これも分かれたりくっついたり。今はくっついているんですか。

○上野委員

文化産業観光部と産業振興担当部と2つあるんですけど、密に一緒になってやっていくということが今求められていて、今日の前にいる、買おうという人たちをどうやって商品につなげていくのかとか、あと皆さんがこの地域にいてくれることでインバウンドの人もこの地域に入ってくる魅力にもつながってきますので、そのへんをうまく取り込んでいきたい、そんなような思いを持っております。

○伊藤委員代理

朝日信用金庫の三木でございます。全般的にというか金融機関目線でお話させていただくと、先ほど副委員長が不確実性の時代でなかなか先が見通せない、まったくその通りなんです、確実に課題が増えて、相談が増えてくるだろうというものがいく

つかあります。

それはやはり事業承継の話題で、老舗企業の経営者の高齢化に伴う話なんですけども、個人目線でいくと経営者の相続対策、事業承継と相続対策など、朝日信用金庫目線でいうと実はだんだん相談件数が増えています。この辺の相談強化というか、これは行政だとか我々金融機関も含めて、専門の先生や支援の方も含めてやっていかなきゃいけない。それをやることによって廃業を抑えられたり、事業者数も増加に展開できたりするのかなと思っています。

それと10年後を見据えて、先ほどどなたかがおっしゃいましたけど、やっぱりある程度、行政のこうありたい姿がとても大事だと思います。数字に示すのは難しいかもしれませんが、ゴールを決めて、そのために今年はどうする来年はどうするみたいな、絵に描いた餅になってしまうかもしれませんが、そういったことも必要かなと思っています。

あと私どもがすごく気になるのは、新しい計画は来年以降の計画だと思うんですけど、足元の現状を言いますと、台東区の事業所に限らず、昨年5月に5類になってから、やはりゼロゼロ融資の返済が一部スタートしている方もいれば、今年の5月で本格的に返済のスタートを切るということで、資金繰り事情の変化が顕著に表れています。具体的に言うと、流動性預金の預金残高が減りつつあると、これが返済に回ったり、新しいニューマネーの調達がしづらいなどが掲げられて、それによってなにが起きているかという、実は租税公課、あるいは社会保険料の未払いなんですか、こういう預金調査が各団体から結構増えています。我々はそれに開示せざるを得ないんですけども、具体的に今度は、団体は差し押さえをかけてくるという現状がとても増えているということです。

当然に一方、債務の返済の月次の延滞も増えている。あるいは突然、延滞はしていない、団体からの照会もないんだけど受任通知が来るとか、こういったことが令和5年度、令和4年度と比較して、これは朝日信用金庫の話ですが、14%増えています。債権額では22%増加と。コロナ前の、コロナ初期の令和2年度に比べて約3倍になっている状況です。先ほど申し上げた5月から本格的に元金返済も利払いも始まるというところで、この1年はとても勝負かという気がします。そのためには足元の支援というのを第一義的に考えていく中で、並行して来年度以降の計画も策定していく必要があるかなと感じています。以上です。

○平川委員

振興公社の平川でございます。今までも各委員から意見がかなり多く出ておりまして、その中で私も感じているところは資料2の4ページに今回の産業振興計画の案でピラミッドの絵が出ていますけれども、やはり目指すべき姿をしっかりと捉える必要があって、仮にKGIをここに設定とすると、この10年間でそれぞれ毎年KPIそれぞれ

れのところでなにをすべきなのかというのを検討していく必要があるのかなと感じています。

その中で柔軟性を持って行動していくということであれば、たぶんこの10年間の中にはこの間のコロナのように突発的なことであったりとか、それから最近は地震が多いので、災害も発生するかもしれない。その都度、計画を一部変更しながら進めていくという方針なのかなと思っているところで、すごくやり方としてはすばらしいなというふうに思っています。

前回の産業振興計画は形として「目指すべき姿」がどこにあったのかというのがもしあれば教えていただき、前回の何か反省点があれば今回の計画とか行動の中に落とし込んでいく必要があるのかなと思ひまして、その辺を分析なり、お感じになっていることがあれば教えていただきたいと思ひます。

○事務局

前回計画の目指すべき姿は、参考でお配りしている「台東区産業振興課（概要版）」を開いていただいて右側の中段に、「世界に躍動する産業都市 たいとう」というキャッチフレーズで定めております。

この目指すべき姿の目標に向かって、例えば新たな事業として海外プロモーション、タイ・バンコクでの商談会など、他にもいろいろな取組みとともにこの目指すべき姿の実現に向けて取り組んだところではありますが、令和2年から本格的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、この計画に掲げていた事業が予定通りに進められなかったというところもあり、反省というよりは、そもそも事業が実施できず、この計画については計画期間が終わってしまったという状況でございます。

現在は、先ほどご説明した令和4年3月に作った産業振興推進方針というものに基づいて、感染状況に応じていろいろな取組みを、比重を変えながら行ってございます。

そのため、それぞれの方針でどれぐらいの事業量をやればある程度達成できるかというような目標値も設定しない中で、状況に応じて取り組んできており、検証がなかなか難しいという状況でございます。

○平川委員

そうすると前回の産業振興計画で、残念ながら環境の変化で実行できなかった、計画通りにできなかったフォローはこの推進方針の中でされてきていて、今回策定する産業振興計画の中に前回のものは盛り込まずに新規の視点で良いという考え方でよろしいのか、それともベースが何か残っているのか、そのあたりはいかがでしょうか。

○事務局

基本的には新規の視点で考えておりますが、もちろん現在の取組みについて、引き

続き実施するべきものがあれば、引き継いでいきたいと思っております。

○懸田委員長

それぞれ第1回ということで、この新しい産業振興計画というもののイメージをお作りいただければと思っておりますが、この委員会自体は先ほどのスケジュールでいきますと、策定委員会を5回開催する枠組みになっていて、その間の意見聴取会等々で委員の皆様方のお助けをいただくというような流れも出てくるかと思っておりますけれども、何かこの計画につきましてご意見ございますでしょうか。

(意見なし)

今回はそれぞれのご意見を頂戴しました。また進行に応じて皆様方のところに事務局からご案内が行くかと思っておりますけれども、よろしくご承知いただければと思っております。

それでは、本日のまとめとして、伊藤副委員長いかがでしょうか。

○伊藤副委員長

いろいろ皆様のご意見を聞いて、大変私も身が引き締まるどころがございました。この計画は10年後ということですので、区民の皆様の意見を幅広く聞いていただいて、10年後は誰にもわからない10年後です。皆様方のご意見はやっぱり事業者様ですから、足元のお話をなさると思っております。そこからプラス10年後を読むのは区の職員の皆様のセンスだと思いますので期待しておりますので、ぜひ区民の皆様の意識の一步先に行くようなそういう提案をしていただいて、またこの場で揉んで、そして良いものにしていきたいと考えております。

○懸田委員長

ありがとうございます。それでは時間もまいりましたのでこれで第1回の産業振興計画策定の委員会を終わらせていただきたいと思います。5月の日程は決まっておりますので、またご案内いただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3 その他

○事務局

5月28日午後2時からを予定しています。

また、意見聴取会の参加者については事務局と委員長で調整させていただきたいと思っております。

4 閉会

(午後3時20分 閉会)